

報道機関各位

熊本大学

熊本大学提案の海底地形の名称が国際的に登録されました。

国際水路機関(IHO)及びユネスコ政府間海洋学委員会(IOC)が共同で推進する GEBCO<sup>※1</sup> 委員会は、全世界を均質にカバーする海底地形図を作成するための国際プロジェクトで、その中に、世界の海底地形名の統一を図ることを目的とした海底地形名小委員会<sup>※2</sup> (SCUFM) があります。

この度、フランスで開催された第22回 SCUFN において、日本からは6件の提案地名が承認され、うち2件が、本学大学院自然科学研究科理学専攻の横瀬久芳准教授の提案した【風神海山(ふうじんかいざん) Fujin Seamount】、【雷神海山(らいじんかいざん) Raijin Seamount】でした。

海底地形名位置図および、風神海山(ふうじんかいざん)、雷神海山(らいじんかいざん)を含む6件の海底地形名は別添(海上保安庁 H21.10.1 広報資料より許可を得て抜粋)のとおりです。

※ 1 太洋水深総図 (GEBCO) General Bathymetric Chart of the Oceans

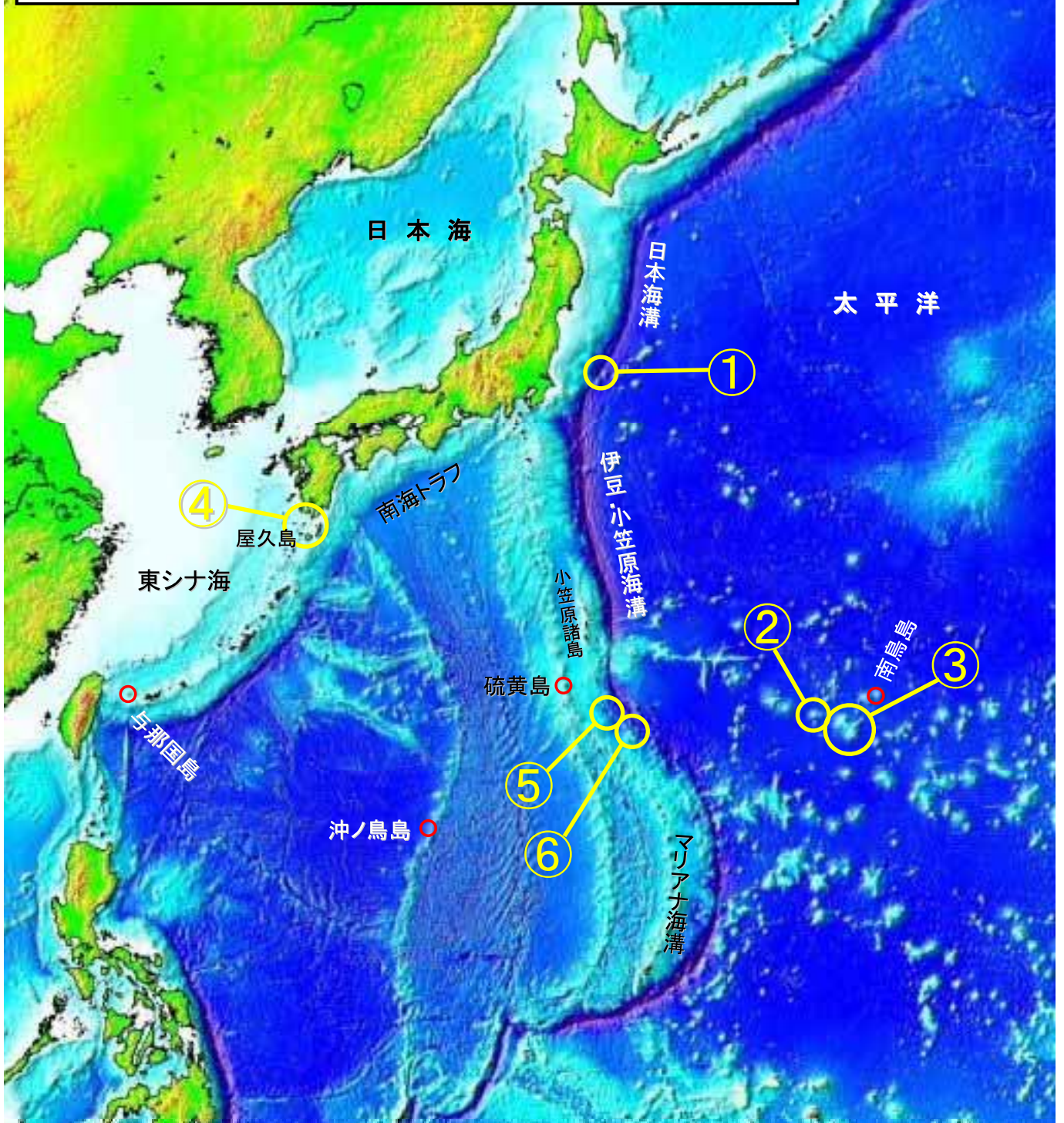
※ 2 海底地形名小委員会 (SCUFM) Sub-Committee on Undersea Features Names

【問い合わせ先】

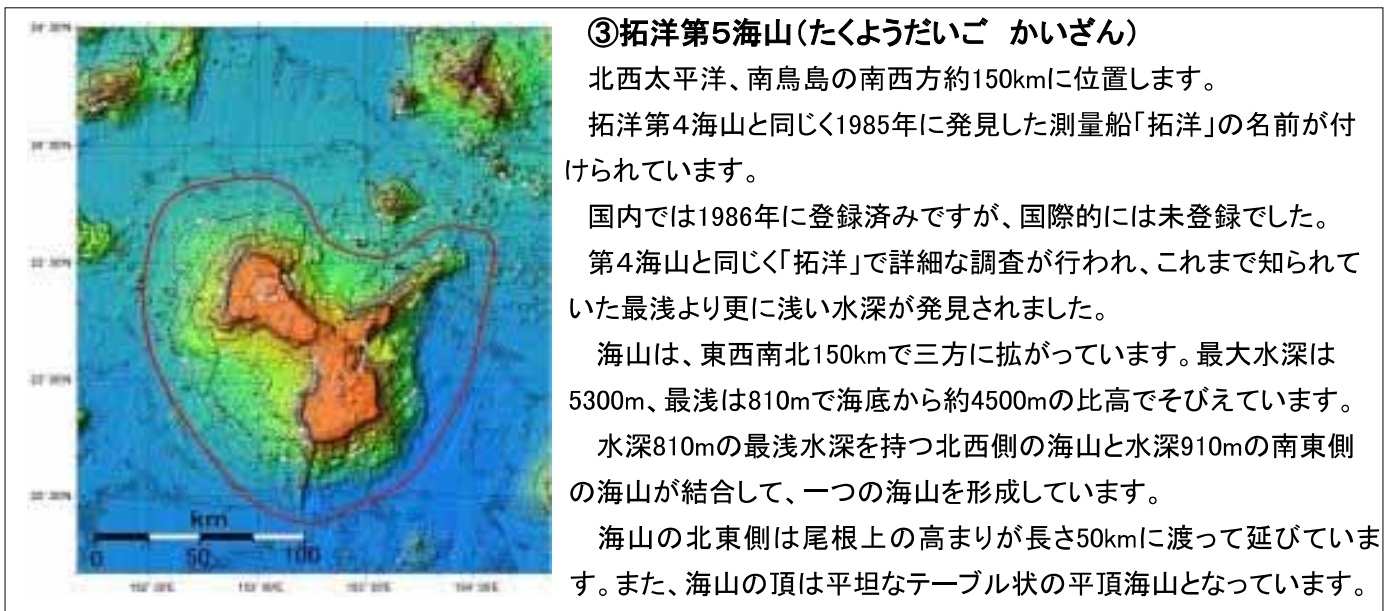
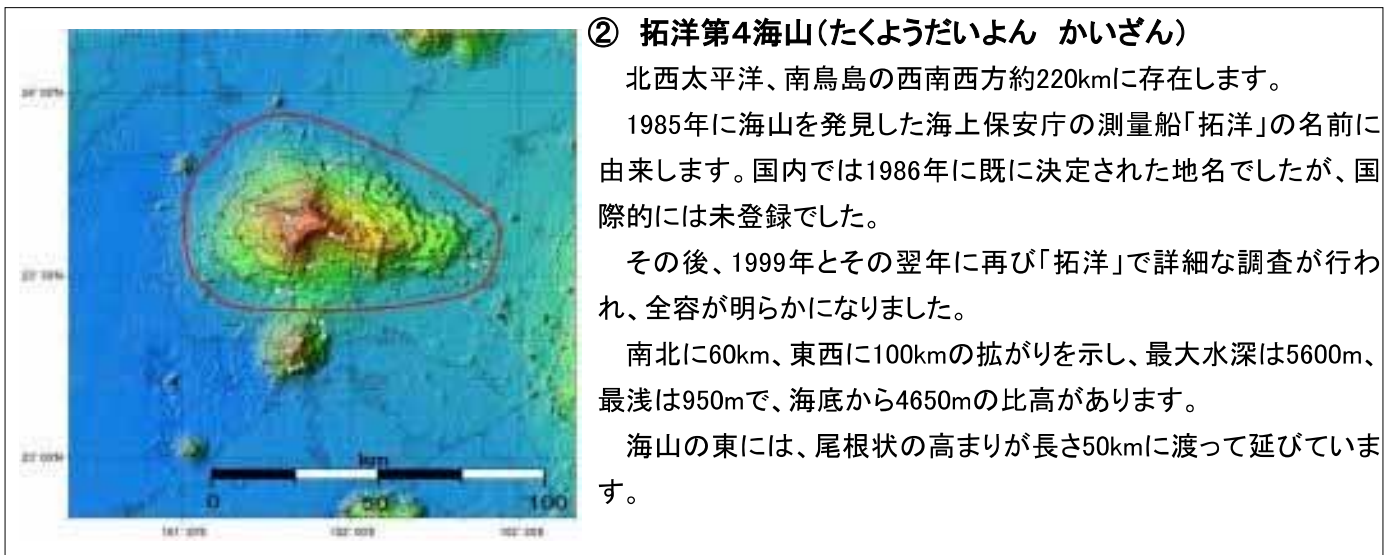
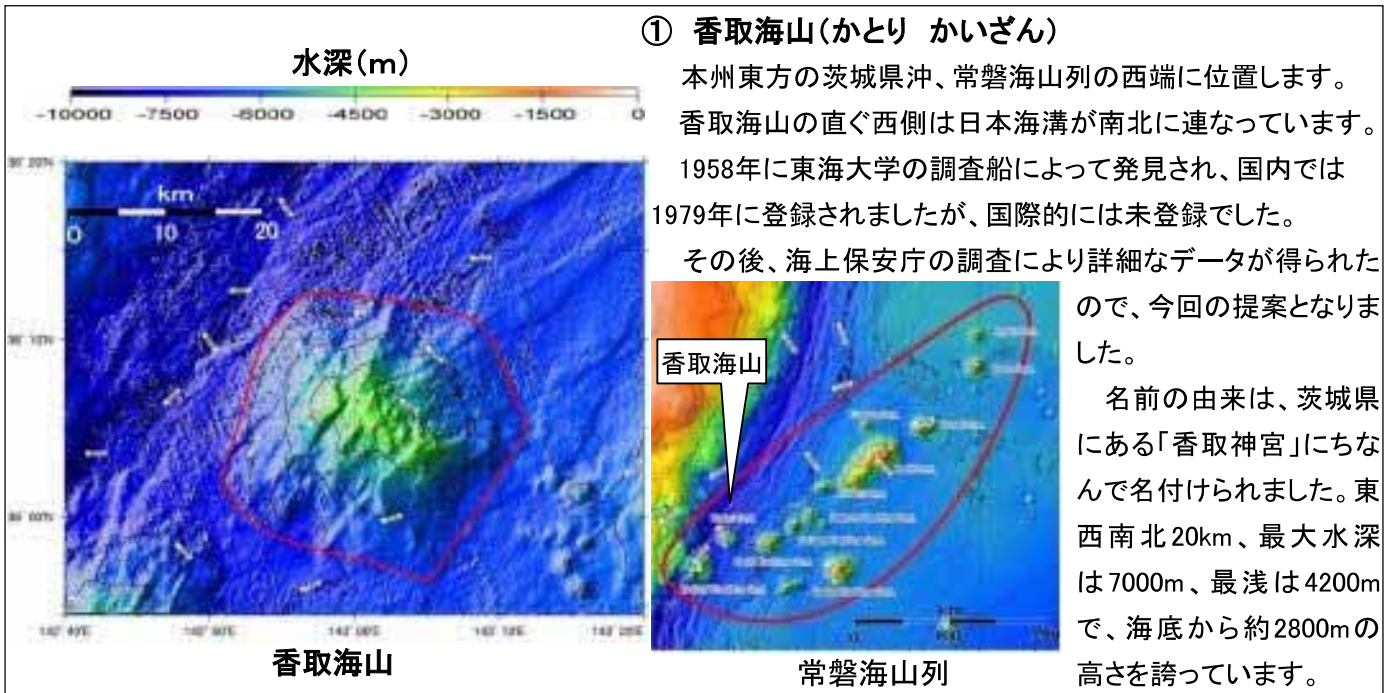
熊本大学大学院自然科学研究科  
理学専攻地球環境科学講座准教授  
横瀬 久芳 Tel : 096-342-3411  
E-Mail : yokose@sci.kumamoto-u.ac.jp

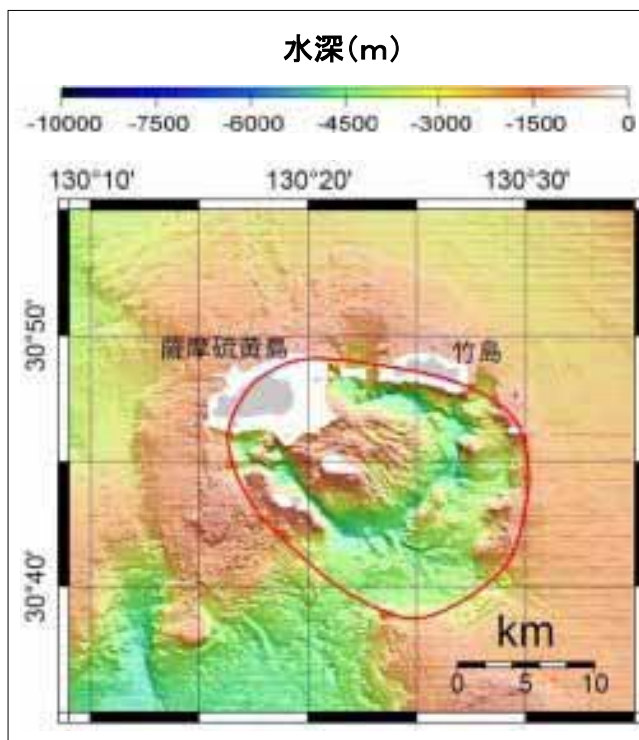
## 第22回GEBCO/SCUFNで登録された日本が提案した海底地形名位置図

- ①香取海山(かとりかいざん) Katori Seamount
- ②拓洋第4海山(たくようだいよんかいざん) Takuyo-Daiyon Seamount
- ③拓洋第5海山(たくようだいごかいざん) Takuyo-Daigo Seamount
- ④鬼界カルデラ(きかいかるでら) Kikai Caldera
- ⑤風神海山(ふうじんかいざん) Fujin Seamount
- ⑥雷神海山(らいじんかいざん) Raijin Seamount









④ 鬼界カルデラ(きかい かるでら)

九州南方、屋久島の北方約20kmにあるこのカルデラは、7300年前の大噴火によって形成され、その後海底に没しました。カルデラの北東に位置する薩摩硫黄島は、現在も盛んに活動しています。

カルデラは戦前の1943年に発見され、名前はカルデラ縁の一部にある鬼界島(薩摩硫黄島)に由来します。

海図にもその名称が記載され、知名度が高いにもかかわらず、国内及び世界的にも未登録でした。

2006年から3年間に渡る海上保安庁の調査で、その全容が明らかになりました。東西22km、南北19kmで、広さは64km<sup>2</sup>に及び、規模は世界的に有名な阿蘇のカルデラ(南北25km、東西18km)に匹敵します。

外輪山、カルデラ床、中央火口丘から成り、カルデラの特徴を示しています。最大水深はカルデラ床で588m、最浅は中央火口丘の水深13mで、比高が575mに達します。

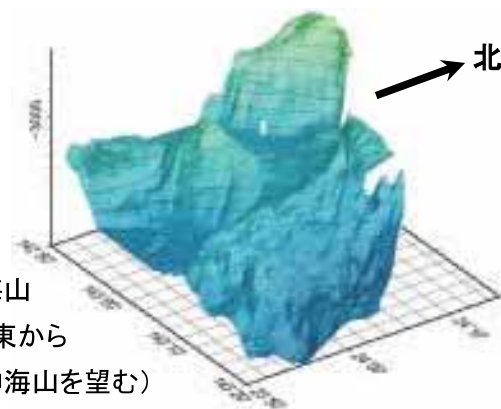
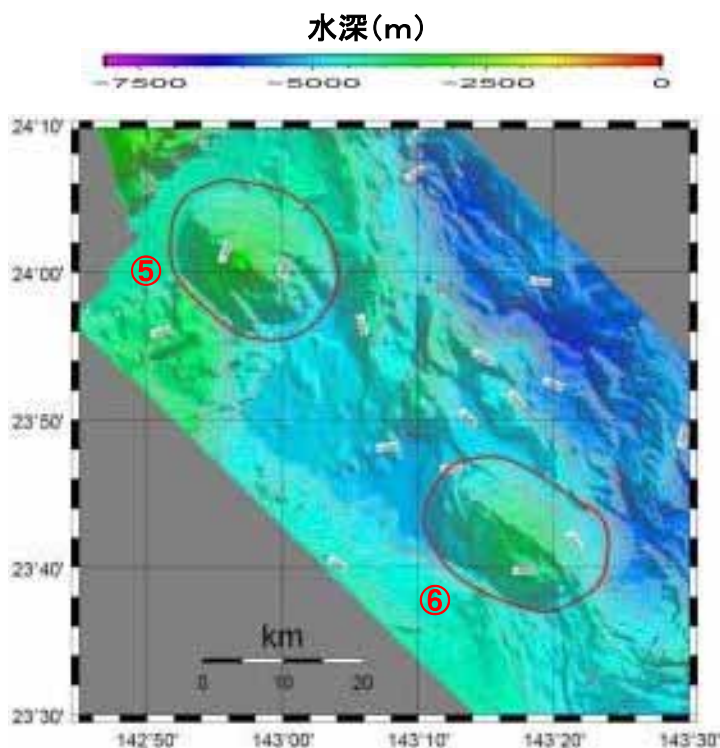
⑤ 風神海山(ふうじん かいざん) ⑥ 雷神海山(らいじん かいざん)

硫黄島の東南東方約200kmにあるこの二つの海山は、今年の調査で発見され、熊本大学から提案されました。

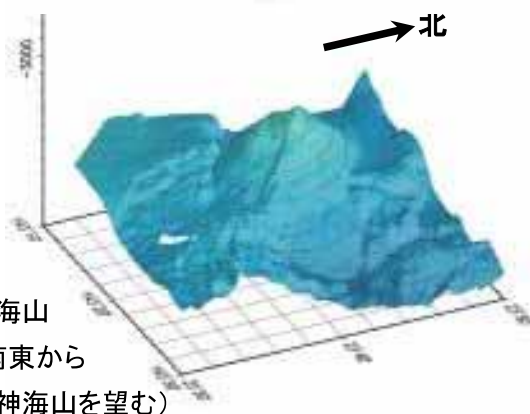
独立した一対の海山であることから風神雷神屏風図(国宝;17世紀前半の俵屋宗達の作、京都建仁寺蔵であるが現在は京都国立博物館に寄託されている)になぞらえて、北部が「風神海山」南部が「雷神海山」と名付けられました。

風神海山は、東西南北約20kmに及び、最大水深4920m、最浅は3275mで比高が約1600mあります。

雷神海山は風神海山の南東方約50kmに位置し、南北15km、東西25kmに及びます。最大水深5649m、最浅は3738mで、比高は約2000mあります。



風神海山  
(東南東から  
風神海山を望む)



雷神海山  
(東南東から  
雷神海山を望む)